

# CASBEE® 名古屋

## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋建築環境性能評価システムマニュアル2016 | 使用評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)モアグレース中村区太閤四丁目 新築工事	階数	地上11F
建設地	名古屋市中村区太閤四丁目1201-2、他7筆	構造	RC造
用途地域	商業・近隣商業地域、防火・緑化地域、特定用途誘導地区、絶対高31m高度地区	平均居住人員	63 人
地域区分	6地域	年間使用時間	XXX 時間/年(想定値)
建物用途	集合住宅		実施設計段階評価
竣工年	2023年2月 予定	評価の実施日	2021年10月14日
敷地面積	633 m <sup>2</sup>	作成者	
建築面積	272 m <sup>2</sup>	確認日	
延床面積	2,099 m <sup>2</sup>	確認者	

外観パース等  
図を貼り付けるときは  
シートの保護を解除してください

2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO <sub>2</sub> (温暖化影響チャート)	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p><b>= BEE 0.9</b></p> <p>★☆☆☆☆ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★☆☆☆☆</p> <p>環境品質 G</p> <p>環境負荷 L</p>	<p>☆☆☆☆ 100%超:☆☆☆ 100%:☆☆☆☆ 80%:☆☆☆☆☆ 60%:30%</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値 100% ②建築物の取組み 62% ③上記+②以外の 62% ④上記+ 62%</p> <p>(kg-CO<sub>2</sub>/年・m<sup>2</sup>)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量の目安で示したものです</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>Q1 室内環境</p> <p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>LR1 エネルギー</p> <p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>LR3 敷地外環境</p>

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p><b>Q 環境品質</b></p> <p>Q のスコア = 2.5</p>		
<p><b>Q1 室内環境</b></p> <p>Q1のスコア = 3.1</p>	<p><b>Q2 サービス性能</b></p> <p>Q2のスコア = 2.7</p>	<p><b>Q3 室外環境(敷地内)</b></p> <p>Q3のスコア = 1.7</p>
<p><b>LR 環境負荷低減性</b></p> <p>LR のスコア = 3.3</p>		
<p><b>LR1 エネルギー</b></p> <p>LR1のスコア = 4.0</p>	<p><b>LR2 資源・マテリアル</b></p> <p>LR2のスコア = 2.6</p>	<p><b>LR3 敷地外環境</b></p> <p>LR3のスコア = 3.0</p>

3 設計上の配慮事項		
総合	省エネルギー性に考慮した設計とした。	
その他		
Q1 室内環境	遮音性能T-1のサッシを採用し遮音性能を高めた。F☆☆☆☆建材を全面的に使用し化学汚染物質の軽減に努めた。	Q2 サービス性能
Q2 サービス性能	高度情報化社会に対応するべく、光ファイバーネットに対応可能とした。	Q3 室外環境(敷地内)
Q3 室外環境(敷地内)	敷地内緑地面積を10%確保した。	LR1 エネルギー
LR1 エネルギー	潜熱回収型給湯器を採用し効率を向上させた。	LR2 資源・マテリアル
LR2 資源・マテリアル	節湯水栓と節水型便器を採用し、資源の有効利用に配慮した。	LR3 敷地外環境
LR3 敷地外環境	潜熱回収型給湯器を採用し、温暖化防止へ配慮した。	

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)  
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)  
 ■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと  
 ■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される




### 重点項目スコア・結果シート

(仮称)モアグレース中村区太閤四丁目 新築工事

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版、名古屋市建築物環境配慮制度運用マニュアル2  
 ■評価ソフト: CASBEE\_Nagoya\_2016(v3.0)

重点項目		評価	全体に対する 重み係数	重点項目 スコア
1. 温暖化対策				3.8
LR1	エネルギー	4.0	0.4	/
LR3.1	地球温暖化への配慮	4.5	0.1	
LR3.2.2	温熱環境悪化の改善	1.0	0.05	
2. 自然共生				1.3
Q3.1	生物環境の保全と創出	1.0	0.09	/
Q3.3.1	地域性への配慮、快適性の向上	無	0.009	
Q3.2	まちなみ・景観への配慮			
Q3.3.2	敷地内温熱環境の向上	2.0	0.045	
3. 循環型社会				2.7
LR2.1	水資源保護	3.4	0.06	/
LR2.2	非再生性資源の使用量削減	2.4	0.18	
LR3.2.3	地域インフラへの負荷抑制 ※2	3.0	0.01875	

### 結果

1. 温暖化対策	評価点 = 3.8	
2. 自然共生	評価点 = 1.3	
3. 循環型社会	評価点 = 2.7	

重点項目のスコアは以下のように算出している。

$$\text{重点項目スコア} = \frac{(\text{評価点} \times \text{全体に対する重み}) \text{の総和}}{\text{全体に対する重みの総和}}$$

※1 ここでは、Q3. 3. 1の評価する取組みのうち評価項目 1) 2) 地域性のある材料の使用 又は、Q3. 2において評価する取組みのうち評価項目 4) 地域性のある素材による良好な景観形成 のいずれかでポイントがある場合は「有」、ない場合は「無」を評価とした。重点項目スコアの算出における評価点は評価「有」の場合は5、「無」の場合は1とし、重みはQ3. 3. 1の全体に対する重みに0. 2を乗じたものとしている。

※2 ここでは、LR3. 2. 3のうち、LR3. 2. 3. 3 交通負荷抑制 を除いたもので評価点及び全体に対する重み係数を算出している。したがって、ここでの評価点はスコアシートにおけるLR3. 2. 3の評価点とは異なるものである。